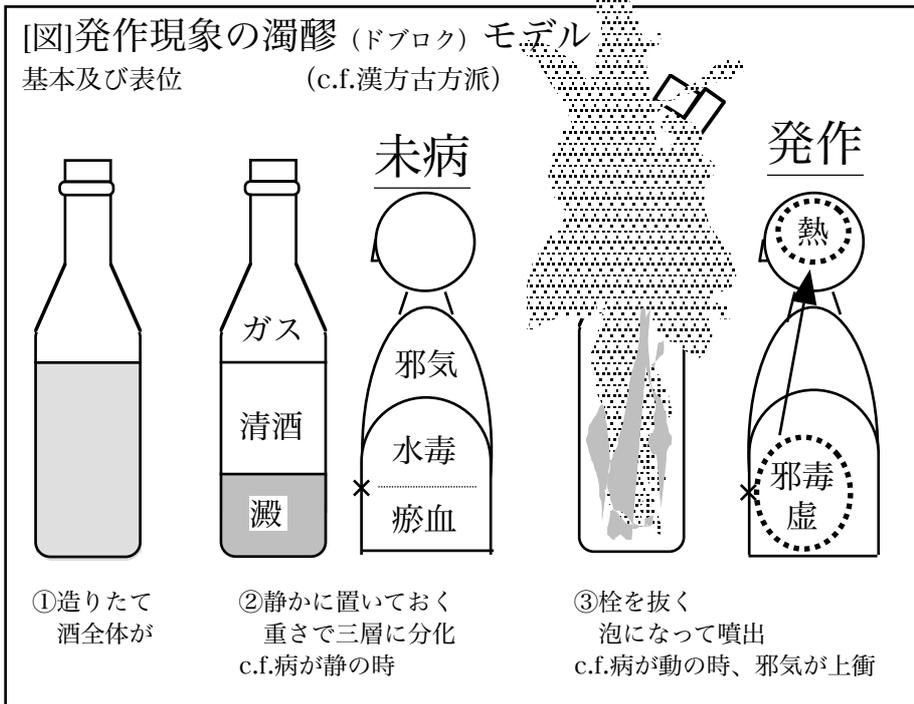


[14] 内科系急性期 1. 表位：頭痛、熱中症、眩暈



体を横輪切りに見る！

- 1.表位：肩胛骨鎖骨から上
- 2.上焦：横隔膜より上
- 3.中焦：横隔膜から臍まで
- 4.下焦：臍から下  
(表位は特にその部分の表面)

『傷寒論』

- 太陽病：上気道感染症  
中風：普通のカゼ  
傷寒：インフルエンザ  
(特に、新型)や  
SARS

上衝：

腹の邪毒・虚から、頭へ  
邪気が衝き上げる

(1) 内科系急性症状と発作 (内科系急性症状は、未病と発作の2つのうちの発作的な病)

- ① 腹の邪毒や虚から、頭の方へ、邪気が衝き上げる (=上衝)
- ② 基本処置：邪気に頭を衝かせないように、体の外に引き出し、上衝を鎮(しず)める
- ③ 上・中・下焦に邪毒や歪みが有るときはそこで症状が出やすく、無いときには表位に出やすい

(2) 表位の急性症状

- ① 頭に邪気が上がっているので、顔や頭を始め表位に熱が出ている
- ② 表位の症状は、上・中・下焦に未病が少ないときに出現しやすい
- ③ 基本処置：頭から邪気を体の外に引き出し、上衝を鎮める→末端への引き鍼+表位の散鍼
- ④ 手早い刺鍼が大切 (邪気の波が来終わった時点で刺鍼を止める)

(3) 実技と手順

- ① 急性期の応急処置：姿勢は、基本的には、座位の刺鍼が望ましい  
手甲(\*1) (→\*2) (→\*3) (→\*4)→肩首頭・散鍼→手甲

- \*1：熱中症・唇ヘルペスなら合谷、眩暈・偏頭痛・耳鳴りなら中渚 (頭の熱い所が目安)
- \*2：\*1で治まらないときは、井穴など手指のツボに引くか、足陽経の足三里・陽陵泉に引く
- \*3：\*1,\*2で治まらないときは、軽く散鍼してから、手陰経手首の近くの列缺・内関に引く
- \*4：表位の症状の背中側にツボが出ていれば、陽に引くのもよい

- ②手指の骨空、井穴などへの灸 (陽明なら拇指・示指、少陽なら薬指の可能性が高い)

- ③疔の虫：手の親指・示指の井穴を挟んで痛くする

☆応急処置後数時間以内に痛みが同じ位に復活したら、器質性病変を疑い、救急医療と連携

